

例会プログラム委員会

今年度の反省と今後の提案

例会プログラム委員長 市来 学

これまで例会プログラム委員会はプログラムの企画、掲載に携わってまいりました。当初、会長、幹事で組んでいただいていた例会をプログラム委員会が引き継いだわけですが、何分不慣れなため今年度は 会長、幹事の主導の元 何とか業務をこなしてきた感があります。

委員長を仰せつかった私ですが、なかなか委員長らしいことができず、委員会報告・自己紹介の依頼をさせて頂いたにすぎず、会長・幹事・委員の皆様へ頼りっぱなしであったと感じております。

原稿依頼をさせていただくのですが、メールが開封されてなかったり、なかなか期日までに届いていただけなかったり、と運営上困ることもあり、今後は原稿の依頼、回収の良い方法も考えていかねばならないと考えております。

またこれまでは委員会報告、自己紹介、研修委員会からのロータリー3分情報、研修リーダーからの一生成香の投稿等で構成してまいりましたが、今後は～月間(例えば世界理解月間)など、課題になることへの投稿など募っていかねばならないと思っております。

また今まで会長、幹事に依存していた事も委員で分担していかねばならないと思います。

委員である花里氏には「例会の質問と課題」を担当していただきました。

これまでの活動について伺いましたところ、質問を作るにあたり、定款を確認する良い機会となられたようです。

今後は、購読義務のあるロータリーの友やガバナ一月信の購読を確認する質問も良いのではというご提案を頂いております。

メインプログラムにおいては、1つのテーマを決め、思うところを投稿していただくこともありではないかとの提案を頂きました。

委員でありまた SAA である小牧氏には、原稿の回収、ホームページへの投稿を受け持っていただきました。

小牧氏からもやはり原稿未提出時の対応方法を考えておく必要があるとのご意見をいただいております。

また、今週の質問を何か新しいものに変えて行くのも良いのでは との提案をいただいております。

近いうちにリアルミーティングを企画し、これらの事を話し合い次年度の運営に役立てていこうと考えております。